

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2009 Spring

4月20日発行 No22

理事長を囲んで
スワン工舎新座
卒業生[座談会]

スワン工舎で見つけた 「働く自分」という未来



〈写真上〉左より、卒業生の所 聡子さん、濱野玲於奈さん、外山敦史さん、有富慶二ヤマト福祉財団理事長、〈写真下3点とも〉ヤマト自立センター スワン工舎新座

福祉はロマンだ! Series10
ヤマト福祉財団賞 受賞者は今...

今こそピンチをチャンスに
就労支援事業の独自推進へ

天野貴彦さん 社会福祉法人ウイズ町田 理事長

ヤマト自立センター
スワン工舎新座

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

YWF TOPICS

舞い上がれ スワンたち
2年半で27名が一般就労へ

障がいは個性。それぞれの得意を生か
せば、チームでメール便が配達できる。

有富理事長を囲んで

スワン工舎新座 卒業生「座談会」

スワン工舎で見つけました

「働く自分」という未来

ヤマト自立センター スワン工舎新座（以下、スワン工舎）には、自立を希望する障がいのあるメンバーが日々、就労に必要な知識や技術の修得に励んでいます。頑張るスワン工舎を卒業。現在、一般企業で責任を持って働いている卒業生に有富慶二理事長が「仕事、働くこと」についてたずねました。

最初は苦勞するけれど、間違わないよう丁寧に

有富慶二理事長（以下敬称略）

みなさん、こんにちは。

外山敦史さん（以下敬称略）

こんにちは。よろしくお願ひします。（株）ヤオコー三芳藤久保店で働いている外山です。主に品出しを中心とした仕事をしています。

理事長 品出しというのは、売れて空いた棚に商品を…。

外山 補充する仕事です。午前はお菓子の棚を、午後からは飲料の品出しをしています。

理事長 濱野さんはどういうお仕事をしているのですか？

濱野玲於奈さん（以下敬称略）

（株）ニチレイティービーセンターというところで働いています。スーパー向けに出す肉の解凍や仕分け、検査などです。

理事長 検査というと？

濱野 ラップに貼られたシールと中身が一致しているかとか、最終ラインに流す前の検査です。

理事長 さて、所さんは？

所 聡子さん（以下敬称略）

クロナコヤマトの埼玉主管支店で、メール便と小物の仕分けの仕事をしています。

理事長 番号とか住所で荷物を宛先別に分ける仕事ですね。宅急便の仕事をしていて難しいことはありますか？

所 間違えて荷物が変なところに行ってしまうと大変なので、間違わないようにというのが…。

理事長 具体的にはどんなところに注意をしているんですか？

所 声出して、住所を読み上げながらやっています。行き先別にいっぱい並んでいるカゴの前で、この荷物は「杉並区のごところ」という感じで確認しながら分けています。

理事長 なるほど。それはいい

濱野玲於奈さん

2008年4月入所。特別支援学校を卒業してスワン工舎へ。みるみるうちに働く力を取得し、ジョブコーチを利用して同年11月には（株）ニチレイティービーセンターに就職。食肉加工部門で盛りつけや検査、発送を担当し、早出や残業もこなしている。

外山敦史さん

ステップアップを目指して2006年4月入所。埼玉県を中心に関東地区で98店舗(2008年3月現在)を展開するスーパーマーケットチェーン・(株)ヤオコー三芳藤久保店に、2007年7月より勤務。家族を扶養している。



所 聡子さん

2006年11月入所。かつて就労していた経験を持ち、ふたたび「働きたい」という思いから、スワン工舎でのトレーニングを希望。得意な読み書きを生かし、2008年6月よりヤマト運輸(株)埼京ベース店でメール便や小物の仕分けを主に担当。

ですね。濱野さんはいかがですか。「これが大変なんだよ、俺じやなきゃできないよ」ってところは? (笑)

濱野 やっぱり最終検査の仕事です。オーダーの数もまちまちですし、ラップがちゃんとかがっているとか、検査項目が細かいので間違わないようにすることです。

理事長 外山さんは?

外山 僕はお菓子の日付チェックが難しいです。賞味期限から30日とかを引いて、店頭に並べてよい期限内になっているかどうか確認しなければいけないので、それが大変ですね。

理事長 暗算でやるんですか?

外山 はい。最初はなかなかできなかつたんですけど、慣れてきたらできるようになって...

理事長 そうすると楽しくなってくるよね。

外山 ええ、そうですね。でも飲料なんかは重いですから、汗

できる仕事が増えていくのがうれしい

理事長 他に仕事をしていて楽しいことありますか?

外山 やっぱり売れたらその分、やりがいがあります。

濱野 僕は、一緒に働く仲間や、僕より先に勤めた同級生に会えるのが楽しみです。「友だちに負けないように頑張らなくっちゃ

がいつぱい出て疲れます...

理事長 なあに、若いから! 一同 (笑)

外山 売れば売れるほど、補充していくのは楽しいですし、体力には自信がありますので、大変だけど頑張っています。

理事長 他に張り合いもあります。

理事長 仕事ぶりを競争しているわけ?

濱野 いや、競ってるわけじゃないんですけど、その同級生を自分で目標にするというか...向こうのレベルが高すぎるので、全然まだまだ、なんですけ

ど。(笑)

理事長 仕事以外はどう? 濱野 お昼休みは自分の働いて

いるチーム以外の人とも会えて、いろんな話ができます。中には外国人の方もいるのでそれぞれの国のことも聞けて楽しいです。

理事長 所さんの仕事の楽しみはどうですか。

所 以前は仕分けばかりでしたが、最近は2便や3便の着準備をしたり、社内便の集配や整理、荷物の引き込み、仕分けラインへの「流し」もさせてもらえるようになりました。これがいまは面白くなっちゃって!

理事長 流すのって力があるで

しょう。

所 そうですね。メール便もまとめて衣裳ケースのようなものに入ってくるので大変ですけど、やってみると新鮮で、どんなできる仕事が増えていくのがうれしいです。

理事長 みなさん、休みの日はどう過ごしていますか。濱野さんは?

所 濱野さんは料理するのが好きそうだな。

濱野 けっこう作ります。中華料理だったら、チャーハンとかチンジャオロースとか。

所 おっ、いいね。

一同 (笑)

理事長 そうか、濱野さんの得意技は料理。所さんは?

所 私は休みのときは、自分の制服を洗濯したりとか、カラオケが好きなので、歌に行ったりしますね。たまに散歩なんかもしています。

理事長 カラオケの十八番は? 所 うーん、何だろうな。小林

幸子さんの歌とか、あとはピンクレディーとかかな。

理事長 UFOっ!とか。

所 そうですね。(笑)

理事長 外山さんは?

外山 僕は最近、運動不足なので身体を動かしたりとか、好きなアーティストのライブに行っ

たりしています。

理事長 身体を動かすってどんな？

外山 サッカーのリフティングをしたり、走ったりとかです。

理事長 リフティング得意な

スワンに行く前は、先が見えてなかった

理事長 スワン工舎を卒業し

て、みなさんは充実した生活を送っているようだけれども、スワン工舎でいまトレーニングに励んでいる人たちに向けて、メッセージやアドバイスはありますか。

所 アドバイスっていうと難しいけど……

外山 とにかく真面目に取り組むことです。

理事長 手を抜かず一つひとつ、ということ？ 外山さんはスワン工舎ではベーカー部門でトレーニングをしていたんですね。

外山 そうです。パンの成形を担当していました。同じ形に成形するのは難しかったけど、一つひとつ真面目にやれば、上達するのも早くなります。

理事長 濱野さんもパン製造を？

濱野 はい。僕は焼く以外のこととはほとんど、いろいろやら

の？ 1時間ぐらい落とさずにいられるとか。

外山 ……いやあ、そんなにうまくないです。

一同（笑）

せてもらいました。

理事長 学んだことで役に立つと思うことはなんですか。

濱野 仕事なので、しっかり指示を聞くことができなかったらいけない、と……。会社の方も、指示を聞ける人のほうが、仕事を任せやすいと思いますし。

理事長 つまり、人の意見をちゃんと聞くことであれば、外で働くときにコミュニケーションもきちんと取れるし、みんなと気持ちよく働けるようになる——、そういうことです。

濱野 はい。スワン工舎に入っ

たばかりのころは、僕自身に「働く」という意識がなくて、落ち込んですぐ泣いていたんですけど……。

理事長 えっ、泣き虫かい？

一同（笑）

濱野 そのときは「働く」意識がなかったというか、先が見えてなかったんです。

理事長 なるほど。将来のイメ

ージが沸いていなかったから「なんで、こんなことするんだろう？」って困惑していたんだ。

濱野 そうです。

理事長 トレーニングの中で、くじけることもあったけど、言うことをきちんと聞きながらやると将来いいこともある。働いてみれば、楽しいことばかりじゃないかもしれないけど、楽しいこともたくさんある。だから、目標に向かって素直に、いま大切なことを一生懸命にやる、ということだよ。

濱野 はい。



ヤマトホールディングス(株)役員応接室で

理事長 所さんはどうですか？

所 私はランドリー部門でアイロンがけとか汚れ落としをやっていました。パンが忙しいときには、袋詰めと外販も手伝っていました。

理事長 スワン工舎で教わって大事だなって思ったことはある？

所 遅刻をしない。遅刻すると

頑張ってみんなと同じように働きたい

理事長 最後にみなさんの今後の目標や抱負があれば、お聞き

したいんだけど。では、濱野さんから。

濱野 製造作業の中で、自分はまだラップやシールのつけ方が全然うまくできないので、それをまず覚えたい。

理事長 でも、すぐにできるようにするでしょう。

濱野 いや、一度やらせてもらったのですが、張り方の手順が細かくて、一筋縄でいかないところが……。（笑）

理事長 ぜひクリアしてほしいな。外山さんはいかがですか。

外山 僕もやったこと

がない仕事をもうすこ

朝礼にも出られなくなってしまうから。外山さんや濱野さんが言うように、周りの人の言うことをよく聞いて真面目にやっていれば、やがて会社さんから「実習してみる？」っていう誘いも出てくるし、そこから実際の就職につながっていくと思います。

し頑張ることができるようになりましたと思っています。

理事長 なるほどね。所さんはすでに仕事の幅を広げているみたいだけど、この先もどんなチャレンジですか？

所 いまはまだ、私のシフトは9時—15時なんです。体力や健康には自信があるので、できたら9時—17時のフルタイムにしてみたいから……。

朝一緒のバスに乗る人に9時—17時の人が多いので、早く私も同じように働きたいと思っています。

理事長 みなさん、前向きですね。きっとそれは毎日が充実しているからだと思います。

これからもみなさんの頑張りを応援したいと思います。今日はありがとうございました。

一同 ありがとうございます。



サービス管理責任者 就労支援員
ジョブコーチ 中島牧子さん

舞い上がれ スワンたち

2年半で27名が 一般就労へ

ヤマト自立センター スワン工舎新座が埼玉県で第1号の「就労移行支援事業所」としてスタート、2年半が経過します。ベーカーリーやランドリーなどスワン工舎の事業を通じて、知識や技術の習得を指導・育成、就労先の開拓に取り組み、18社の企業に就労を実現しました。サービス管理責任者の中島牧子さんにお話を伺います。

社会福祉法人ヤマト自立センター スワン工舎新座

設立 ● 2006年5月23日（同年10月に就労移行支援事業としてスタート）

定員 ● 23名

所在地 ● 埼玉県新座市菅沢1-3-1

就労実績 ● 27名 / 卒業生31名のうち27名が就労、4名は福祉施設への進路変更（2009年3月現在）

就労先企業 ● 18社（埼玉県 17社、東京都 1社）

百円玉が分からなかった
メンバーが、
レジに立てるようになった

スワン工舎に来られる方、特に特別支援学校を卒業されたばかりの若い方の就労が難しい理由は、経験の不足です。この「経験」とは働くというより、生活全般についてのことです。

たとえばお金に関し、百円がどれかわからない方もいらっしゃった。お母さんも教えることをあきらめてしまったといいます。でもスワン工舎は店があります。ですから、根気よく続けていると身体で覚えてしまうんですね。レジに立っているその姿を見て、親御さんのほうがびっくりされます。残念ながら自立支援法のルールにより、就労移行支援サービスの利用には、原則2年の期限があります。ふだんから家事の手伝いをしている方は、技術の吸収が早いのですが、そうでない方の場合、生活面から積み上げていかなければならず、正直2年では足りません。

「親御さんが元気なうちに家庭でもいろんなことを根気よく教えてあげてほしい、そのお手伝いは私たちがするから」と、本人も交えた面談で話をさせていた。だくうちに、保護者の意識もだ

んだん変わってきました。

メンバーの能力を活かせる
就労先を開拓

就労先の開拓は日曜朝刊の求人折込を隔々までチェックするところから始まります。どの利用者さんができる仕事内容か、働く時間や勤務地を確認しアタリをつけてからハローワークに電話し、これまでに障がい者雇用をしたことがあるかを問い合わせます。もし過去に雇用の経験があれば、これはもう◎です。

雇用経験のないところは、先方の企業様に電話を差し上げて、まず見学させてほしいとお願いします。先方も彼らに何ができるかご不明ですので、見学をさせていたいただきながら「うちの利用者さんならこの作業もできます」とアピールしていきます。

就労後の定期的なフォローも先方に提案させていただきます。



新座市老人福祉センターでパンの外販



一枚一枚丁寧に〜クリーニング工舎で



焼き上がったパンを袋詰め

スワン工舎では卒業生を永続的に支援していこうと考えているので、月1回は必ず会社と本人に連絡をしています。季節の変わり目には、気分が落ち込んだりするような人もいますが、問題になる前に私たちが行くことで互いに安心できる。性格も能力も分かっている私たちが話した方が伝わりやすいこともあります。

日々彼らの様子を見て、得意不得意を見極め、能力を活かせる場所を探してくるのが私たちの仕事。就労が無理なら違う施設があるからというのではなく、就労につながるように彼らを育てる責任がある「就労移行支援事業」1本でよかったと思います。

勤務先で元気に働いている卒業生に会うときに感じる充実感。「この仕事をしていてよかった」と、思う一瞬です。

メール便を手渡しする澤さん。ここ株式会社山口瓦工業では、みなさんが親しく彼に話しかけてくれます。汗をかきながら一生懸命配達する姿が、印象的だそうです。



この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

障がいには個性。それぞれの得意を生かせば、 チームでメール便が配達できる。

徳島県鳴門市の鳴門大麻メール便センターで、メール便配達業務に取り組む
NPO法人「JCIテレワーカーズネットワーク」(略称JCI)。ここでは、障がい者それぞれの
特性に合わせた分業方式を取り入れて、チームプレイでメール便配達に取り組んでいます。
こうした取り組み方は、全国でも初めての試みだといえるでしょう。

仲間で、補いながら
仕事をリレーしていく。

JCIのメール便配達の1日は、
朝8時半、鳴門大麻メール便セン
ターに、下肢に障がいのある大高
さんが専用の車でメール便を引き
取りに行くところから始まります。
大高さんは、メール便配達のドラ
イバーを担当しています。

大高さんが持ち帰ったメール便
は、JCIの仕事場で知的障がい
のある澤さんや柴田さん、三浦さ
んらによって仕分けがされます。
サポート役は、やはり上、下肢に障
がいのある井端さんたち。細やか
に、またあるときは厳しく彼らを
サポートして、テキパキと仕事が
進みます。

こうして仕分けられたメール便、
配達にもチームプレイが光ります。
近いところは、徒歩や自転車での配
達しますが、離れたところは、大
高さんの運転する車に澤さんが
乗車して、それぞれの家のポスト

にお届けしていくのです。

「私一人ではメール便の配達はで
きないんです」と、この仕事のリー
ダー的存在の大高さん。「車イス
では、車の乗り降りが大変ですし、
段差のあるところには投函でき
ません。配達役の彼らと組めたこ
とで、この仕事ができるのです。ほ
んと頼れるパートナーです」
しかし、チームの構成メンバーは
彼らだけではありません。驚くこ
とに、重度の移動障がいを持つメ
ンバーが、在宅でしっかりとこの作
業をサポートしているのです。そ

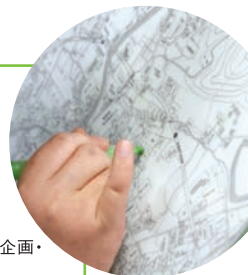


●徳島主管支店 鳴門大麻メール便センター
面積67.4km²／人口22,835人／世帯数8,457

●特定非営利活動法人「JCI Teleworkers' Network」
会員数約260名、その内約170名が障がい者。
2006年12月メール便配達開始。
メール便配達事業の他、チャレンジを対象としたICT講習会の企画・
運営、Webサイトの設計・開発、印刷事業など。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」
お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 押尾
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
e-mail y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp

これは、正木さんと堀さん。JCIか
ら送られてくる毎日の業務日報
や月報報告書、請求書資料作成
などの事務処理を、パソコンとイ
ンターネットを活用して担当して
います。「今日もみんな元気がで
んばっていると感じられます」(正
木さん)、「昼間がんばっている人
を支えている責任を感じます」(堀
さん)
このような、さまざまな障がい
を持つ方が分業してひとつのチー
ムをつくり、メール便配達に取り
組む試みは、これまでにはなかつ
た新しいケースだといえます。
こうしたチームの連携プレイで、
JCIでは、月間4,500冊程の
配達実績を上げています。



(A) 朝、車イスでメール便を受け取りに行くドライバー担当の太高幸男さん。
 (B) 仕分け作業風景。サポート担当も仕分け担当も、それぞれに障がいを持っている方たち。(C) 太高さんとパートナーを組んで配達をする三浦崇人さん。この仕事にやりがいを感じていると話します。(D) 自転車で配達する澤朋行さん。最近、ノートパソコンをプレゼントしてくれたんですよ、お母さんが幸せそうに教えてくれました。
 (写真右ページ中) 配達が楽しいと言う、柴田千佳さん。お疲れさまでという言葉がうれしいと、話してくれました。



JCIのみなさん。本当に仲がいい。みんなが信頼しあっていて、まるで猪子理事長を父親とするひとつの温かな家族のよう。
 (後列左から) 猪子幸理理事長、澤朋行さんのお母さん、柴田千佳さんのお母さん、ドライバー担当の中村博貴さん、配達担当の澤朋行さん・三浦崇人さん・柴田千佳さん
 (前列左から) ドライバー担当の太高幸男さん、在宅で事務担当の正木和代さん・堀敦信さん、ヤマト運輸 菊野進課長、ヤマト福祉財団 内山修事務長

「障がい個性」という視点。

JCIのこうしたユニークな取り組みは、猪子理事長の枠にとられない自由な発想と、障がい者の社会的・経済的自立への強い想いから生み出されたものでした。
 「私は、障がい個性だと言っているんです。それぞれの特性を生かして工夫すれば、仕事を創り出すことができます」「時間と場所の制約から解放された新しいワーキングスタイルをつくることで、重度の障がい者も仕事ができるようになります。そのために、ICT(情報通信技術)を積極的に取り入れて活動を行っています」(猪子理事長)
 JCIでは、メール便配達事業を始める前に内部でプロジェクトチームを結成し、ミーティングや

研修を徹底的に行ったそうです。そして、責任ある仕事を行うために基本としたのが、分業とチームプレイだったのです。

- ・車での配達作業は2人1チームで担当。
- ・運転は車イス利用者や下肢障がいを持つメンバーが担当。
- ・配達作業は知的障がいを持つメンバーが担当。
- ・業務管理、作業報告書作成を在宅メンバーが担当。

という業務フローを設定。2006年の12月18日より、業務を開始したのです。

初日の配達数はわずか20通。しかしメンバー全員で試行錯誤を繰り返しながら、またヤマト運輸の担当者たちともタッグを組みながら、現在の実績にまで成長することができました。その成功の裏には二人ひとりの仕事のクオリティを徹底させる厳しい目があつたのです。

猪子理事長は話します。「障がい者だからまあ仕方ないか、ということをおぼしめません。彼らの自立のために今必要なものは、支援よりも指導だと思っています。ちゃんと学習できる機会があれば、彼らは成長するんです。ちよつとだけ、時間がかかるだけなんです」

運転と仕分けのサポートを担当していた中村さんも「仕事は厳しく、終われば仲間、というふうにしています。知的障がいのある仲間も、本当に成長しました。とても頼り

になります」と話します。

彼らの成長には、家族の方も目を見張ったそうです。柴田さんのお母さんは「朝、出かけるとき、とつてもうれしそうなんです。それまで家にいても何もなかったのに、自分から何かをしようとするようになりました。自分で考えて行動しなさい、と言われていたんです」。教えてもらったなら、こんなに変わるんだと、驚いたそうです。

地域に出て行くのが 本当の自立。

徳島主管支店 メール便事業部の菊野課長は、JCIとの最初のミーティングの段階で、間違いなく感じたそうです。

「メール便配達を始めても断念してしまうところには、共通点があるんです。それは、サポート職員がやりすぎることです。心配のあまり、メイトさんに多くをまかせないんです。それでは長続きしません」「JCIでは、プロの仕事をすると責任感を、全員に持たせていました。本人に責任感を持たせているところは、大丈夫なんです」

猪子理事長は言います。「彼らはこの仕事で、たくさんのお金を学んでいます。地域に出て行くのが本当の自立。地域の人に対面できる経験は、お金には代えがたいものなんです」



(後列右より)・徳島主管支店 菊野進課長「彼らの仕事を楽しむ姿を、他のメイトさんにも見せたい」・財団法人ヤマト福祉財団 内山修事務長「イキイキとしたあの笑顔を見ているとうれしい」・徳島中央メール便エリア 椿茂利スーパーバイザー「最初の頃に問題点を聞いて、初期対応をしてあげることが大切」

(前列右より)・阿波西メール便エリア 矢田修一スーパーバイザー「とても真面目にやってくれる。もっと増やしていきたい」・鳴門大森メール便センター 田所祐樹センター長「仕事が丁寧で、問題がありません。頼りにしています」

そして最後に「ヤマト運輸のみなさんは、彼らを障がい者として特別扱いしませんでした。仕事をすると対等な仲間として、ちゃんと厳しく、そして温かく接してくれました。そのことにお礼を言いたいです。とても励みになりました」と話してくれました。
 JCIでは自立への強い意欲だけでなく、仕事に対する意識の高さと、それを支える確かなシステムを生み出していました。そして始まったチームプレイは、これからのメール便配達事業に新たなヒントを与えてくれています。

ヤマト福祉財団賞 受賞者は今……

今こそピンチをチャンスに

就労支援事業の独自推進へ

第5回受賞者 天野貴彦さん

社会福祉法人ウイズ町田 理事長

共同作業所をつくって最初に手がけたのが布巾づくり。一枚200円。売れない。ヤマト福祉財団の助成金で刺繍機能つきミシンを購入。花の刺繍をほどこして売ったら250円なのによく売れた。「その頃からです。工夫してモノを売ろうという気持ちが芽生えたのは……」と語る天野貴彦さん（第5回ヤマト福祉財団賞受賞）に登場していただきます。

東京都最南端のまち、町田市

天野貴彦さんが理事長を務める『社会福祉法人ウイズ町田』のある町田市は、東京都の最南端の市街。すぐ隣りは神奈川県です。小田急電鉄とJR横浜線との交差点に位置し、横浜、東京新宿、八王子市などとは電車で約3、40分の距離にあり、地の利にすぐれています。江戸時代は2・6の日に市が立って栄え、横浜の開港で生糸が輸出の花形となると、甲府、八王子、神奈川を結ぶ街道は

「絹の道」と呼ばれるほど発達を遂げます。明治のはじめこの「絹の道」は、町田の村々に自由民権の風を吹き込み、人々に新しい時代の夜明けをつげました。

人口は現在41万人。市は、市民協働のまち、環境先進都市、子育て・保健福祉のまち、などを目指すとしており、障がい者福祉も比較的高い水準にあるという印象を受けます。

事業委託解消で正念場

と、ここで、そうした「福祉のまち」にあつて、『ウイズ町田』はいま、一つの大きな正念場を迎えています。

2004年以来、町田市からの業務委託を受けて取り組んできた障がい者就労支援事業が、本年3月末をもって市から打ち切られ、他の障がい者団体に委託先を変更されたからです。

就労支援事業とは、町田市が実施主体となり、一般就労を希望する障がいのある人を対象に、地域での就労・生活面の一體的なサポートを行う事業。障がい者を雇用している企業、これから雇用を考えている企業に相談や助言の手伝いもします。この事業運営の一切を『ウイズ町田』は市から受託し、別途、「町田市障がい者 就労・生活支援センターらむむ」なる組織を設けてこれまで5年間、活動してきました。

障がい者からの利用登録、スキルアップ訓練などの就職準備支援、職場実習、職場定着支援などが主な業務。5年間に





● 配食班の弁当づくり (写真左上)
● スワンカフェ＆ベーカリー町田 (写真上)
● 「あじさい」「赤い屋根」「あらぐさ」、三つの団体が2001年にウィズ町田を設立 (写真左)

一般就労に送り出した障がい者は、知的精神、身体など約140名。それも年々著増傾向にありました。利用登録者は09年1月末現在、500名に及んでいます。にもかかわらず業務委託を打ち切られました。形式的には、他団体との競争の形で行われた事業運営のプロポーザル(計画案)で「ウィズ町田」は、落選したわけですが、市の対応は天野さんにとっても「ウィズ町田」にとっても大いに不満です。天野さんの弁。

「東京には23区、多摩地区21カ所に支援



センターがあります。業務の委託先が変更されたという例は聞いたことがない。別にウチが不祥事をおかしたわけでもなく、実績も他とくらべてひけをとらない。私が市に対してよく言いたいのは、委託事業の適正規模です。これを示してほしい。というのは、年々、100名くらいずつ本制度の利用者が増えていく。が、市からの委託料は変わらないんです。市は委託料の範囲でやってくれというが、利用者の増加にともなって費用も増える。この5年間にウチから持ち出しになったおカネは2000万円にもなります。だから、市には事業の適正規模をきちんと出してもらって、それに合った委託料の見直しをしてほしい、と昨年来、言ってきたんですが、そのところが理解を得られなかったのかも……。今一つ、本年度から市は、2カ所のセンターで支援事業を行うことになった。一つは身体、知的、発達障害者を主たる対象とするもの。も一つは精神障害

「また来いよ」の言葉に誘われ

天 野貴彦さん、48才。大阪は京都に近い茨木市の出身。高校2年生のとき父親の転勤で東京へ移住。やがて法政大学へ進みます。当初は教師になりたかった。テレビなどで学校の先生を主人公にしたドラマが多かった時代。中村雅俊、村野武範らが活躍していました。それに影響を受けた。が、大学は経済学部で教職への道どころか、山登りにばかり熱中していました。

町田市、そして障がい者福祉との出会

者が対象。これについてもウチは意見を述べました。自立支援法ができて三障害が一元化されてきている時代に分割支援はおかしいんじゃないか、と。それも受け入れられなかった。身体、知的、発達障害のほうはウチを含めて2カ所が、精神はやはりウチを含めて3カ所が応募。どちらもウチは取れなかった」

しかし、5年間で2000万円も持ち出し、しかも現在、就労希望500名の登録者を抱え、また就労を引き受けてくれた企業などとのなじんだ関係を放り出してこのまま支援事業から撤退するといふわけにはいかない。

「市からの委託料は入ってこないが、こういうしんどいときこそ、ピンチはチャンスと考え方やらなくちゃ」と天野さん。「市からの委託事業はこの3月で終結しましたが、就労支援はわが法人独自でこれからもきちんとやっていきます」

いは大学3年のとき。

「町田市の公民館事業の一つに障がい者青年学級というのがあったんです」と天野さん。学友でもあり登山仲間でもある友人がそこでボランティア活動をしていました。その友人と山を登りながらのやりとりで「自分は教職の道に進みたい」と希望を語ると、「教育という学校教育を中心に考えがちだが、社会教育というのも重要だ」と友人。そんな会話がきっかけで、友人が関係している町田市の障がい者青年学級を見学することになる。そこで知的障がいのある若者(の範疇に入らぬ人もいたが)らから大歓迎を受ける。「障がい者学級ということで暗いイメージを抱いて来たがとんでもない。みんな歌なんか唄ってすごい元気。よく来た、どこから来た、と話しかけてくれる。帰る際に、また来いよ、と言われ、うん来るよ、ということになり、それから知らず知らずのうちにその青年学級に通うようになったんです」

青年学級は月2回。そのうち特別支援学校生の放課後活動にも週3、4回参加するようになる。本格的な町田通いの始まりです。青年学級は市の公民館事業だったから薄謝程度のものを貰ったが、特別支援学校の場合はまったくのボランティア。

1984年、天野さんは大学を卒業。同じころ特別支援学校の放課後グループの一つも高等部を卒業する。その中には自閉症の人、跳びはねたり、パニック状態になったりの非常に重度の人が少なくなかった。それらの人々には、学校を出たけれど行き場がない。じゃあみんな自分らの働く場を作ろうではないかというこで始めたのが『共同作業所かたつむりの家』。すでに障がい者らの生活にどっぷりはまっていた天野さんがおのづから職員第1号に。

最初の1年は実績がないから公的補助金はゼロ。給料は障がい者のお母さんらが出しあった会費の中から支給される。天野さんの給料は月額6万円。当時、アパートの家賃は3万3000円くらいだった。どうやって生きていたんだろう、と笑う天野さん。



● インタビューに応じる天野さん (右)
「町田市障がい者就労・生活支援センターらむ」で

通所者は特別支援学校卒業生が6人だったが、もともと放課後活動の中から始まった作業所なので、毎日、時間を見計らって学校へ生徒を迎えに行き、作業所活動に参加させた。だから15人くらいになった。やがて市から補助金が交付されるようになり、職員も3人に。

だが、共同作業所といってもとくに自慢できるような仕事はしていなかった。メインは玉ビーズを使つてののれんや絵画用の額づくり。それだけじゃダメというんで、洗濯ばさみの組み立てなどもやった。あまり売れるものではないから、給料はほとんど出せなかった。

作業はともかくみんなに元気を出してもらいたくて、市内にある温水プールに連れて行ったり、登山もした。山男だっ

た天野さんにとって山登りはお手のもの。近くの丹沢をはじめ、奥秩父や時に南アルプスのほうまで出かけた。これには保護者たちもわいわい参加した。車椅子の仲間を天野さんが背負って登ったこともあった。下山に時間がかかって暗くなり、懐中電灯を照らしながら下りたことがあった。遠くに眺める街の灯がとてもきれいで、みんなで歓声をあげた。

「弁当屋」で月給5万円達成

1 993年、天野さんは『かたつむりの家』から独立する形でオープンした中途障がい者のための作業所、『あじさい共同作業所』に転じます。『かたつむりの家』の法人化を機に、知的障がい者が中心だった通所者の対象を他にも広げようということで開所した作業所でした。

『あじさい共同作業所』は中途障がい者の作業所だから、年配者が多い。ここへ当初、『かたつむりの家』からも4、5人移ってもらった。それらの人は特別支援学校を出たばかりだから10代の人が中心、みんな若い。脳卒中等で体の不自由な年配の中途障がい者と若年の知的障がい者が、まるで親子のように助け合いながら働くアットホームな作業所が出来上がっていきます。

「ヤマト福祉財団から刺繍ができるミシンを贈られたのはその頃です」と天野さん。布巾を作って売っていた。1枚200円。売れない。何か付加価値をということから贈られたミシンで花柄の刺繍をほどこした布巾を作った。その分値段を250円に上げたがこれがよく売れた。

ある夏、休暇を利用して本格的な登山に自閉症の人を連れて行ったことがあった。3000メートル級の山だったが、彼は天野さんに見習って岩場などをしっかり登り、心配することはまったくなかった。障がいのある人がそんなことを経験することは少ないので、口に出しては言わないがいい思い出になったと思う、と天野さん。

その経験から、工夫をしてモノを売ろうという気持ちが芽生えてきた、と天野さんは言う。

中途障がいの人がかつて一般の企業で働いていて世間並み収入というものを知っている。ところがここまでは月額3000円、5000円の収入にしかない。わが子のような若い知的障がい者らがそんな低収入を当たり前ののごく思っていることを彼らは嘆く。そのことにも天野さんは触発されたようです。

1999年、天野さんはヤマト福祉財団主催のパワーアップセミナーに参加。作業所通所者の工賃をせめて3万〜5万円にするための仕事選びをテーマにグループに分かれてディスカッションしました。そこで着眼し、のちに取り組むことになるのが「弁当屋」。

おなじ頃、『あじさい共同作業所』は定員オーバーになって『あじさい第2共同作業所』を開所します。が、これもすぐいっぱいになって三つ目を作ることになる。この第三の作業所は第一目標を、高い工賃支給、収益力のある作業所、としました。「弁当屋」はこの新作業所で

おこされました。

弁当づくりでは天野さんの山登りでの体験が生きました。メニューづくり、調理も自分でやった。そしてピラの配布、試食品提供などによる常連客の掘り起こし。天野さんは、

「みんな懸命に働きました。その結果、最初の1年で小倉さん(ヤマト福祉財団初代理事長)のいう『月給1万円からの脱出』に成功、平均給与3万円を達成しました」と当時を振り返ります。翌年、給与は5万円にアップ。

『あじさい』グループは、やがて市内の他の共同作業所『赤い屋根』『あらぐさ』とともに協力して『社会福祉法人ウイズ町田』を立ち上げます。背景には、福祉をめぐる環境が厳しくなり、このままでは生き残れないという危機感の共有がありました。2001年でした。

法人格の取得を機に、傘下の各グループの活動が躍動します。施設整備のための借地利用の道が開けるなど、活動条件が緩和されたことによります。制度を活用して早め早めに新事業に取り組んだのも効を奏しました。

そして今、『社会福祉法人ウイズ町田』という大樹を支えに枝別れた各作業所は、仕出し弁当づくり、スワンカフェ&ベーカリー町田店経営、メール便配達など、多角的な活動を活発に展開しています。『障がい者就労・生活支援センター』の活動も、町田市の委託解消にひるまず、独自の形で進めていくことになったので、その成功を期待し、見守りたいと思います。

取材・文 高田 三省

2008年5月に発効した「障害者の権利条約」について、障がい当事者が学ぶための地域フォーラムが各地で開催されています。2月6日の仙台、3月28日の京都も共に満員。条約による影響は、福祉、労働分野のみならず、教育、交通、環境などあらゆる部分にわたることがパネリストの報告によって明らかに。条約という大きな課題が身近な問題として来場者に伝わっています。国内の当事者の幅広い合意のもとに日本も批准できるよう、主催者である日本障害フォーラムによると、次年度はドン・マッケイ元国連障害者の権利条約特別委員会議長の来日実現にむけて、準備していくそうです。

※ヤマト福祉財団・損保ジャパン記念財団・キリン福祉財団は、この地域フォーラムに協同で助成しています。

社員のみなさん ご協力ありがとうございました！ 伊東屋様のカレンダー販売

東京・銀座の伊東屋様から今年もカレンダーのご寄付をいただき、ヤマト運輸の支社・主管支店で販売しました。451,556円の収益金は、全額ヤマト自立センターに寄付。一般企業へ就労するための就労移行支援に役立てられます。



贈呈式
(3月26日)



中国支社三次支店



九州支社



関西支社

各地で活発な議論がはじまる 「障害者の権利条約」 推進フォーラム



基調講演するティナ・ミンコウィッツ氏（世界精神医療ユーザー・サバイバーネットワーク共同議長 11月29日 JDF セミナー in 東京 灘尾ホール）



活発な意見交換が行われた京都フォーラム
(3月28日 ラポール京都 大ホール)

おめでとう

アビリンピック 東京大会

(2月21日 東京都障害者職業能力開発校にて)

喫茶サービスの部 金賞

安室光代さん（スワンカフェ銀座店）

喫茶サービスの部 銅賞

堤 純子さん（スワンカフェ銀座店）

※金賞の安室さんは全国大会に出場します。同時に出場した浦山紀子さん（スワンベーカー赤坂店）は、作業中のハプニングにより残念な結果に。次回のご健闘に期待しています。



会場にて、左から浦山さん、安室さん、堤さん

国立トレチャコフ美術館展 忘れえぬロシア

イリヤ・レーピン
《レーピン夫人と子供たち
「あぜ道にて」》
1879年 油彩、キャンヴァス
©The State Tretyakov Gallery



イリヤ・レーピン《ピアニスト、ゾフィー・メンターの肖像》
1887年 油彩、キャンヴァス
©The State Tretyakov Gallery

開催期間▶2009年4月4日（土）～6月7日（日）

休 館 日▶会期中無休

開催場所▶Bunkamura ザ・ミュージアム

●JR山手線渋谷駅ハチ公口より徒歩7分

●東急東横線・東京メトロ銀座線・京王井の頭線渋谷駅より徒歩7分

●東急田園都市線・東京メトロ半蔵門線・東京メトロ副都心線渋谷駅3a出口より徒歩5分

開館時間▶午前10時～午後7時（入館は午後6時30分まで）

毎週金・土曜日は午後9時まで（入館は午後8時30分まで）

入 館 料▶

	一般	大学・高校生	中学・小学生
当日	1,400円	1,000円	700円

○障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名様は手帳のご提示で、入館料が一般：700円、大学・高校生：500円、中学・小学生は400円 となります。

問い合わせ先▶

■Bunkamura ザ・ミュージアム 電話03-3477-9413

■http://www.bunkamura.co.jp/

主 催▶Bunkamura、毎日新聞社

後 援▶ロシア連邦大使館、ロシア国際文化科学協力センター

協 力▶日本航空

企画協力▶アートインプレッション

巡回情報▶岩手県立美術館 2009年6月13日（土）～7月21日（火）

広島県立美術館 2009年7月28日（火）～10月18日（日）

郡山市立美術館 2009年10月24日（土）～12月13日（日）

Information of the Art

国立トレチャコフ美術館展の美術品取り扱いをヤマトロジスティクス株式会社が協力しています。

19世紀後半、ロシア帝国が崩壊の坂道を下り始めた頃、14人の画学生たちが美術アカデミーに反旗を翻したことにより、ロシア美術の潮流が変わっていきます。先頭に立ったのは、後に名作《忘れえぬ女》を描いたクラムスコイ。彼らは見慣れた日常生活やロシアの美しく壮大な自然、平和なひとこまを写実的な作品として描くようになり、地方都市に展覧会を巡回させ「移動展派」と呼ばれました。

クラムスコイをはじめ、ロシア美術の代表的画家レーピンやシーシキンなど、国立トレチャコフ美術館が所蔵する作品から75点が出品。ロシアの自然や情景を描いた作品に、代表的な作家チェーホフ、トルストイ、ツルゲーネフ等の肖像画を加え19世紀後半から20世紀初頭にかけて、リアリズムから印象主義に至るロシア美術の流れをたどります。

イワン・クラムスコイ《忘れえぬ女》
1883年 油彩、キャンヴァス
©The State Tretyakov Gallery

ヤマト福祉財団全国支部連絡先 （ヤマト運輸（株）内）

支 部	事 務 長	連 絡 先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL.022-374-8065
東京支部	山元誠司	TEL.03-5564-3705
関東支部	塚本良輔	TEL.045-508-6106
北信越支部	青木浩昭	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野静香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田久雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	内山 修	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3310
沖縄支部	古謝盛裕	TEL.098-840-3605

賛助会員個人51,609人 法人ヤマトグループ45社（2009年3月31日現在）

本誌の無断転載・転用を禁じます。©（財）ヤマト福祉財団



関東支部
塚本良輔新事務長が就任しました。
よろしくお願いいたします。



関東支部東地区
（千葉・埼玉・茨城）担当
平井 忠事務長が就任しました。
よろしくお願いいたします。